

花とあかり

小川未明

青空文庫

母 ^{はは} ちようは子 ^こ ちよう にむかつて、
 「日 ^ひ が山 ^{やま} に入 ^{はい} りかけたら、お家 ^{うち} へ帰 ^{かえ} つてこなければいけません。」とおしえました。

子 ^こ ちようは、あちらの花 ^{はな} 烟 ^{たけ} へとんでいきました。赤 ^{あか}い花 ^{はな} や青 ^{あお}い花 ^{はな} や、白 ^{しろ}い、いい香 ^{にお} いのする花 ^{はな} がたくさん咲 ^{さき} いていました。

「これはみごとだ、うれしいな。」といつて、花 ^{はな} から花 ^{はな} へとびまわつて、おいしいみつをすつていきました。そのうちに日 ^ひ が山 ^{やま} へはいりかけました。けれど、子 ^こ ちようは、むちゅうになつて花 ^{はな} をとびまわつていました。

「やあ、暗 ^{くら} くなつた。」と、子 ^こ ちようはあたまをあげますと、これはまたどうしたことでしょう。あちらにも、こちらにも、うつくしい水 ^{みず} のたれそ ^{いろ} うなみどり色 ^{いろ} の花 ^{はな} や、青 ^{あお}い花 ^{はな} が咲 ^{さき} いていました。

「なんの花 ^{はな} かしらん。いつてみてから、お家 ^{うち} へかえりましょう。」と、子 ^こ ちようはとんでいきました。きれいな花 ^{はな} に見えたのは、でんとうのあかりでした。外 ^{そと} へ出 ^で ようとすると、ガラス戸 ^ど につきあたりました。

「やあ、しまつた。」と、子 ^こ ちようは氣 ^き をもみました。

「あれいなちようちようだなあ。」

「まあ、きれいなちようだこと。」

「そのとき、こういう子供たちのこえがきこえました。

「僕つかまえて、ピンでとめておこうかな。」

「正ちゃんおよしなさいね。かわいそだから、にがしておやり。」

「僕、お兄さんのように、ひょうほんをつくるのだ。」といつて、弟の正ちゃんは、窓の下にいすを引きずつてきました。

「ねえ、正ちゃん、にがしておやり。」と、光子さんはなみだぐみました。

「子ちようはにげようと思つて、はばたきをしました。

「わたし、お父さんからもらつた小刀ナイフをあげるから、にがしておやり。」と、光子さんはいいました。

「ほんとうにくれる。じゃ、にがしてやるよ。」

「子ちようは、あやういところをたすかりました。

お家へかえつて、そのことを、母ちようにはなしました。母ちようは、かわいい子ちようがたすけられたのをよろこびました。そうして、母ちようは、

「かんしんなお嬢さん^{じょう}の美しいお目^めがますます美しくなりますように。」といつて、いのりました。

「あのやさしいお嬢さん^{じょう}のかみのけがもつと長くたくさんになりますように。」と、子^こちようもいのりました。

すると、この話をきいた花^{はな}たちまでが、かんしんして、いつしょにいのりました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 10」講談社

1977（昭和52）年8月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第6刷発行

※表題は底本では、「花《はな》とあかり」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：仙酔ゑびす

2012年2月19日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたつたのは、ボランティアの皆さんです。

花とあかり

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>